

巻末資料 用語の解説

ここでは、本文中では紹介ができなかった、交通または行政に関する専門的な用語などのうち主なものについて、解説を示します。

「〇〇アンド〇〇」

主に公共交通機関を利用する場合に、さまざまな移動手段を組み合わせた方法を示すものです。

- ・「バスアンドライド」＝「レールアンドライド」…鉄道とバスを組み合わせる移動する方法。
- ・「パークアンドライド」…自家用車（駐車）と鉄道またはバスを組み合わせる移動する方法。
- ・「キスアンドライド」…自家用車（送迎）と鉄道またはバスを組み合わせる移動する方法。
- ・「サイクルアンドライド」…自転車と鉄道またはバスを組み合わせる移動する方法。

「ワークショップ」・「グループインタビュー」・「パブリック・コメント」

いずれも、行政に対する住民参加の新しい手法とされているものです。「ワークショップ」は、参加者が共同作業により課題発見や解決方法、評価などを行う方法。「グループインタビュー」は、数人の対象者に対して司会者が質問を行い、自由に発言をしてもらうことで意見などの収集を行う調査手法。「パブリック・コメント」は、行政の政策立案過程でその案を公表し、案に対して広く意見などを求め、提出された意見などを考慮して最終的な意思決定を行う手法。

「交通バリアフリー」

身体に障害を持つ方や高齢の方を中心に、段差の解消や手すりの設置、点字や音声装置の設置などにより、どんな人でも生活に不便を感じさせないようにする取り組みが「バリアフリー」であり、駅などのエレベーターやスロープの設置、床が低く車内に段差がないノンステップバスの導入、全国や世界共通の案内表示の設置など、身体的にも心理的にも不便を取り除く取り組みのことです。

「デマンド交通」

路線バスのように経路や時刻があらかじめ全て決められているものではなく、デマンド（Demand＝注文・要請）があった場合のみ、その経路やその時間の運行を行う方法のこと。路線バスが一部の遠回りの区間のみデマンド方式で運行する方法、予約・注文を集約の上で時刻や経路を決定してから運行する方法のほか、個人で自由に利用できるタクシーは元来より完全なデマンド交通です。

「NPO」

(Non-Profit Organization) 民間の非営利組織のこと。政府や市町村、民間企業などとは異なる独立した存在として、主に市民や民間の支援によって社会的な公益活動を行う団体や組織です。

「シビルミニマム」

住民の方々がその地域で生活するための必要最低限の環境条件、生活水準のこと。主に、市町村が最低限の目標としている行政サービスの水準のことを示しています。また、国が国民のために保障する必要最低限の生活水準のことは、「ナショナルミニマム」といいます。

「交通需要マネジメント」

(Transportation Demand Management) 「TDM」と呼ばれ、国や警察、市町村などが連携して、公共交通の利用促進や自家用車などの通行規制、時差出勤などを通じ、各移動手段の需要に変化を発生させ、都市部を中心とした地域の交通混雑の緩和などを図ろうというものです。

「ボトルネック」

(Bottleneck) 飲み物の瓶は首の部分が細くなっていて、大量に流れ出ないようにになっています。ここでは、前後の道路が広がっているものの、一部に狭い部分があるため、その場所で道路交通の流れが悪くなることによって激しい渋滞が発生してしまう場所のことを示しています。

「コミュニティバス」

主に行政や地域が主体となって、交通弱者や地域の活性化などを目的として、一定の地域内で運行するバスのこと。一般の路線バス（乗合バス）などと明確に区別できないものもあります。

「ICカード」

(Integrated Circuit Card) 集積回路（IC）チップが内蔵されたカードのことで、従来の磁気式のカードに比べ、記憶容量やセキュリティ（安全性）の性能が非常に高くなっています。

滝沢村公共交通計画

平成 18 年 3 月発行

本書の無断転載を禁ず

発行者 滝沢村 〒020-0192 岩手県岩手郡滝沢村鶺鴒字中鶺鴒 55 番地
都市産業支援部道路課 公共交通政策担当
(平成 14、15 年度 経営企画部総合政策課)
(平成 16、17 年度 経営企画部参画協働課)

電 話 019-684-2111

F A X 019-684-1517

滝沢村ホームページ <http://www.vill.takizawa.iwate.jp>

この計画の策定並びに本書の発行は、交通エコロジー・モビリティ財団の支援により行われました。

滝沢村公共交通計画

協働によりつくりはぐくむ たきざわの公共交通